表４　弥生時代～飛鳥時代の年表

時代	時期	細分		西暦	高校の教科書に記載された全国の動向	越後平野の状況
弥生時代	後期	前半	1	0	57倭の奴国王、後漢に入貢。印綬を受ける	遺跡数の減少、東北系土器･北陸北東部系。
				100		遺跡数が徐々に増加
		後半	2	150	107倭の国王、後漢に入貢。生口を献上	村上市山元遺跡・三条市経塚山遺跡の環濠埋没
			3	190	147この頃から倭大いに乱れる（倭国大乱）	新潟市古津八幡山遺跡の環濠埋没
	終末期／早期		4			
			5		239卑弥呼、魏に遣使、親魏倭王の称号を受ける	長岡市横山遺跡の環濠埋没
			6			他地域の土器の流入。東北系土器の激減。
	前期	前半	7	250	266倭の女王（壱与？）、晋に派使。前方後円墳の出現。	阿賀北で低地の集落が急激に増加
			8			
		後半	9		この頃ヤマト政権、統一進む	胎内市城の山古墳
			10			新潟市菖蒲塚古墳
古墳時代	中期	前半	11	380	391この頃より倭軍、朝鮮半島に出兵	新潟市古津八幡山古墳。続縄文土器の南下停止
			12		413倭、東晋に遣使。技術者集団の渡来（渡来人）、巨大古墳の造営	新潟市牡丹山諏訪神社古墳
		後半	13		421倭王讃・438倭王珍・443倭王済、宋に遣使	
			14		462済の子興、安東将軍の称号を受ける。478倭王武、宋に遣使、安東大将軍の称号を受ける	
	後期	前半	15	500	512百済、加耶に進出	村上市浦田山古墳群
					527筑紫国造磐井の反乱	
		後半			562新羅、加耶を滅ぼす。587蘇我馬子、物部守屋を滅ぼす	
				600	592馬子、崇峻天皇を暗殺する。593厨戸王、政務に参加。（前方後円墳の消失）	遺跡数の減少
飛鳥時代		前半			603冠位十二階制定。604憲法十七条制定。607小野妹子を隋に派遣	
					645大化の改新。難波宮に遷都。	647年に渟足柵、648年に磐舟柵の造営
		後半			658阿部比羅夫、蝦夷を打つ。663白村江の戦い。667近江大津宮に遷都。	
					672壬申の乱、飛鳥浄御原宮に遷都。689飛鳥浄御原令施行。694藤原宮に遷都	田上町行屋崎遺跡・新潟市大沢谷内遺跡の成立

■新潟県埋蔵文化財センター・史跡古津八幡山 弥生の丘展示館－令和３年度秋季企画展－

「倭国大乱～律令国家成立までの越後平野」

会　　期　令和３年９月14日（火）～12月12日（日）

主　　催　新潟県埋蔵文化財センター・新潟市文化財センター

展示会場　第１会場：新潟県埋蔵文化財センター　　第２会場：史跡古津八幡山 弥生の丘展示館

後　　援　新潟日報社／朝日新聞新潟総局／毎日新聞社新潟支局／読売新聞社新潟支局
ＮＨＫ新潟放送局／ＢＳＮ新潟放送／ＮＳＴ新潟総合テレビ／ＴｅＮＹテレビ新潟／
ＵＸ新潟テレビ21／ラジオチャット・エフエム新津

協　　力　新潟大学考古学研究室、長岡市教育委員会、三条市市民部、新発田市教育委員会、
加茂市教育委員会、村上市教育委員会、阿賀野市教育委員会、胎内市教育委員会、
田上町教育委員会

講 演 会　9月19日　滝沢規朗　「邪馬台国時代の新潟」
10月17日　篠原和大氏　「東海からみた邪馬台国時代の新潟～登呂の洪水以後の東日本～」
10月24日　青木　敬氏　「中央からみた古墳時代の新潟」
11月21日　浅井勝利氏　「渟足柵・磐舟柵の造営の意義」
（講演会主催：10月17日は新潟市文化財センター、それ以外は新潟県埋蔵文化財センター）

新潟県埋蔵文化財センター・史跡古津八幡山 弥生の丘展示館　令和３年度秋季企画展
「倭国大乱～律令国家成立までの越後平野」展示図録
発行日：令和３年９月17日
編集・発行：新潟県埋蔵文化財センター
指定管理者：公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
〒956-0845　新潟市秋葉区金津93番地1
ＴＥＬ：(0250) 25-3981　ＦＡＸ：(0250) 25-3986
ＵＲＬ：https://www.maibun.net/
新潟市文化財センター
〒950-1122　新潟市西区木場2748番地１
ＴＥＬ：(025) 378-0480　　ＦＡＸ：(025) 378-0484
ＵＥＬ：https//www.city.niigata.lg.jp/kanko/bunka/rekishi/maibun/
印　刷：株式会社ハイングラフ

２０２１年度　秋季企画展

倭国大乱～律令国家成立までの越後平野

新潟県埋蔵文化財センター・新潟市文化財センター

ごあいさつ

このたび、新潟県埋蔵文化財センター・史跡古津八幡山 弥生の丘展示館令和３年度秋季企画展「倭国大乱～律令国家成立までの越後平野」を開催することとなりました。

中国の歴史書に、大いに乱れた倭国を邪馬台国の女王・卑弥呼が鎮めた、と記された弥生時代後期から、律令国家が成立するまで、越後平野は西側の情報が伝わる日本海側最北の地でした。一方で、単に北方社会との境界を示すだけではなく、北方社会の情報も伝わる最も南の地でもありました。西（南）、北（東）の情報が交差するこの地域の重要性は、近年の発掘調査で続々と明らかになってきています。

本展では、これまで新潟県・新潟市が発掘調査をしてきた遺跡出土品に加え、多くの機関で発掘調査された出土品や研究成果を踏まえ、越後平野の重要性に迫るものです。

新潟県の出土品をとおして、県民の皆様が日々の生活の中で文化財から郷土の歴史を身近に感じ、埋蔵文化財への理解を深めていただければ幸いです。

最後になりましたが、企画・開催にあたり後援機関・協力機関の皆様にお礼申し上げます。

令和３年９月14日

新潟県埋蔵文化財センター・新潟市文化財センター

目　次

1　越後平野と今回の展示遺跡の特徴――1
2　倭国大乱前後の越後平野――2～4
3　古墳時代の越後平野――5～11
4　渟足柵・磐舟柵の造営――12～13

例　言

1　本書は新潟県埋蔵文化財センター・史跡古津八幡山 弥生の丘展示館令和３年度秋季企画展「倭国大乱～律令国家成立までの越後平野」の図録である。

2　秋季企画展の期間は2021年９月14日（火）から12月12日（日）までである。

3　執筆・編集は新潟県埋蔵文化財センター・新潟市文化財センターが行った。

4　図録の作成にあたり、新潟県教育委員会･(公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団並びに新潟市教育委員会（合併前の市町村を含む）が刊行した発掘調査報告書以外に、下記の文献を主に参考としており、図（・写真）を引用した文献と文中（　）内の文献No.は一致している。

①新潟県教育委員会・村上市教育委員会　1957『磐舟－磐舟柵跡推定地調査報告書－』

②村上市教育委員会・新潟大学考古学研究室　1996『磐舟浦田山古墳群発掘調査報告書』
清文堂出版株式会社　2006『日本海域歴史体系』第２巻古代篇Ⅱ

③藤本　強　2009『日本列島の３つの文化』市民の考古学⑦　同成社
山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館　2011『やまがたの古墳時代』

④株式会社 山川出版社　2013『詳説日本史』
関 雅之　2013「考古学から見た阿賀北地方の七世紀－古代城柵期前後の遺跡調査の現状と課題－『越佐研究』第70集　新潟県人文研究会

⑤新潟市歴史博物館　2015『古墳ワールド！蒲原の古墳』

⑥文化財保存新潟県協議会　2020『文化財保存新潟県協議会･第21回大会　「前方後円墳発見！－角田浜で、頸城平野で、あなたの町で・・・」』
新潟県考古学会　2019『新潟県の考古学Ⅲ』

5　本書掲載の出土品説明に記載の会場は、下記のとおりである。
第１会場：新潟県埋蔵文化財センター
第２会場：史跡古津八幡山 弥生の丘展示館

1　越後平野と今回の展示遺跡の特徴

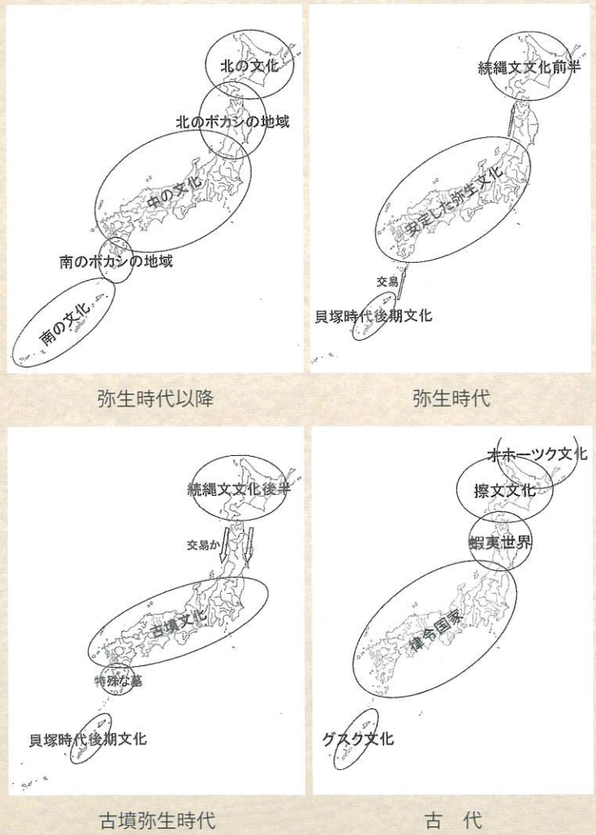
（1）越後平野の特徴

新潟県北部から中部、現在の行政区では村上市から長岡市にかけて広がり、信濃川及び阿賀野川などが運んできた土砂によって作られた氾濫原の沖積平野です。新潟平野、蒲原平野とも呼ばれ、面積は約2,000km^{2}と東京都の面積に近く、本州日本海側の平野としては最大の面積を誇ります。

越後平野では、村上市三面川河口から新潟市角田山麓までの約100kmに新潟砂丘が形成されている点も大きな特徴で、海岸線に平行して最大で10列にも及びます。発達した砂丘が障害となり、阿賀野川を含む多くの河川は直接海に出ず、近世までは信濃川河口に合流していました。内陸側には多くの湿原や潟湖が形成され、水ハケが良くないことから農業生産力はそれほど高くありませんでしたが、近世以降に排水用の人工流路が多く建設されて耕作地が格段に広がりました。

（2）越後平野の弥生～飛鳥時代の遺跡の特徴

新潟大学の教授を勤められた藤本　強　氏は日本列島の三つの文化と題し、弥生時代～中世までのまとまりを示しました。大きくは「北の文化」「中の文化」「南の文化」として、各境界付近にボカシの地域を設定しています（図１）。時代により若干異なりますが、越後平野は阿賀野川を境に中の文化と北のボカシ地域が交わると捉えられています。中の文化の定義は特に重要ですが、越後平野は中央とされる地域の文化が波及する日本海側最北地、北の文化が波及する最南地です。時代・時期によって、その境が越後平野内を南北に移動しているようにも見えます。今回は越後平野で発掘された多くの遺跡から、中の文化・北の文化を示す出土品を展示しました。中の文化の最北地、北のボカシ地域の最南地での発掘調査成果から、日本列島の歴史が見えてくるようにも思えます。



弥生時代以降　　弥生時代

古墳弥生時代　　古　代

図１　日本列島の文化（文献③から）

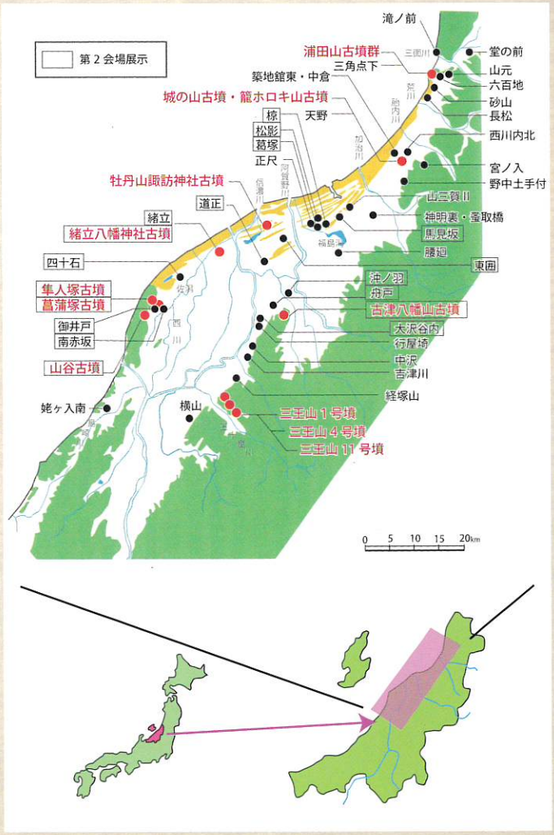


図２　今回の展示遺跡位置図

2　倭国大乱前後の越後平野

（1）倭国大乱とは

中国の歴史書には、倭国内で争いが起こっていたが、女王・卑弥呼が争いを鎮めたと記されています。争いが起った期間は70～80年（魏志倭人伝）、西暦146～189年（『後漢書』東夷伝）とあり、弥生時代後期後半の2世紀後半頃の出来事と想定されています。実際にこの時期に戦いがあったのか、新潟にもその影響が及んだのか。日本国内にはまだ文字がない時代。遺跡の発掘調査から探ることが可能です。

（2）倭国大乱前～大乱期頃の土器様相

弥生時代の後期、西暦0年～150年までの新潟の状況を探っていきます。弥生時代後期前半～後半にかけて、県内でも遺跡数が徐々に増え、ムラの立地や住まいに変化が見られます。多くの遺跡の発掘調査で一番見つかる土器の特徴を見ていくと、面白いことが分かります。新潟県で見つかる土器は、大きく3種類に分かれます（図3・表1）。単に土器が違うだけではなく、家や墓の特徴、使用する道具が違う場合があり、土器の分布圏は生活様式のまとまりで、クニに近いまとまりとも考えられます。

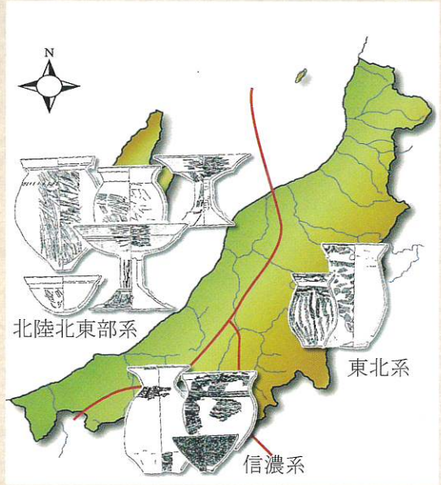


図3　弥生時代後期後葉の土器の地域色

（1）加茂市中沢遺跡の北陸系土器（第1会場）

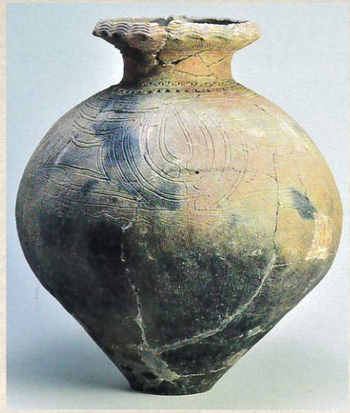
越後平野は北陸系（1）と東北系の境界にあたり、信濃川中流域で信濃系と接するなど、複雑に文化が交差する地域です。阿賀野川より南の丘陵上にある新潟市秋葉区古津八幡山遺跡では、東北系・北陸系土器がほぼ同じ割合で使用されていたようです（2）。また、プロポーションは東北系ですが、縄文ではなくハケメ（板状工具の調整痕）が残る土器があります。ハケメは北陸的とされ、1つの土器に東北・北陸の要素が折衷した珍しい土器（八幡山式土器）です（3）。

（2）新潟市古津八幡山遺跡の北陸系土器（左）と東北系土器（右）（第2会場）

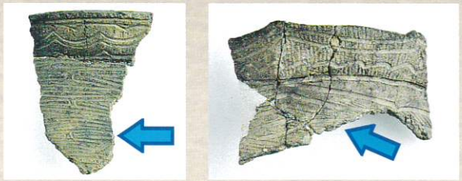
系統	形・文様の特徴	土器の色
東北系	縄文時代以来の縄目の文様	黒っぽい
北陸 北東部系	山陰・北近畿などの要素を持ち、独自に発達	白～黄色っぽい
信濃系	中部高地などを中心に発達した櫛描の文様	赤っぽい

表1　系統別の特徴

（3）新潟市古津八幡山遺跡の北陸・東北の要素が認められる土器（八幡山式土器）など（第2会場）



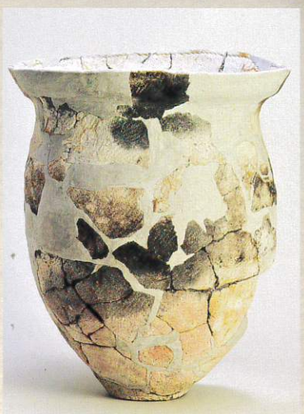
（4）村上市砂山遺跡の壺（第1会場）



（5）村上市砂山遺跡（左）・山元遺跡の東北系土器（第1会場）【頸部（⇒）の菱形の模様が特徴的】

（7）村上市砂山遺跡の折衷した甕（第1会場）

（8）村上市滝ノ前遺跡の東北系鉢（第1会場）



（6）村上市堂ノ前遺跡の東北系甕（第1会場）

東北系土器圏の阿賀野川以北（以下、「阿賀北」という。）では、頸部の菱形文様が特徴的です（5）（砂山式）。古津八幡山遺跡では未確認のため、同じ東北系でも阿賀北と南で様相が違うことが分かります。また、古津八幡山遺跡とは逆に、プロポーションは北陸系で東北系の縄文がある大変珍しい土器（7）も見つかっています。

（3）戦いに備えたムラか－高地性集落・環濠集落－

戦乱、社会的緊張状態の証の一つとして高地性集落・環濠集落が注目されてきました。高地性集落とは、水田に不向きな高台のムラ、環濠集落とは周囲を濠で囲んだムラのことです。一度落ちると抜け出すことが困難な大きな濠もあり（図4）、区画の意味もあったと思いますが、戦いに備えた防御のムラと考えられています。

共に、弥生時代後期後半よりも前からあるムラで、高地性集落は山住のムラとする意見もあります。このためここでは環濠集落と、より防御の意識が高かったと予想される高台で周囲を濠で囲んだ高地性環濠集落を中心に見ていきます。

環濠集落・高地性環濠集落は、弥生時代のムラの特徴とされ、南は熊本県、北（東）の太平洋側は千葉県まで確認されています。一方、日本海側の最北地は新潟県です。県内で最も北で、国内最北の高地性環濠集落は、東北系土器圏の村上市山元遺跡です（図5）。

図4　新潟市古津八幡山遺跡の環濠

①県内の環濠集落

10数遺跡見つかった環濠集落（図6）は、規模や環濠が埋まった時期から大きく3つに分かれます（表2・4）。社会的な緊張状態の解消で濠が埋まったとすれば、弥生時代後期後半（①2期と②3期）、終末期／古墳時代早期（③5期）に

図5　国内最北の高地性環濠集落 村上市山元遺跡

図6　新潟県の高地性集落・環濠集落

国内で大きな変化があったと予想されます。年代は科学分析の進展により更に精度が増しますが、現状では①後期後半の２期は100～150年頃、②同３期は150～190年頃、③終末期／古墳時代早期が190～250頃年と考えます。②は、倭国大乱から女王・卑弥呼が鎮めたとされる時期に近く、新潟市古津八幡山遺跡や妙高市斐太遺跡など、大規模な高地性環濠集落の環濠が最後に埋まった時期と合致する可能性もあり、注目されます。その後も環濠集落は低丘陵や平地で若干確認され、やがて弥生時代終末期／古墳時代早期の中頃には廃絶されます。

	立地	規模	環濠が埋まる時期	主な遺跡
①	高台	小規模	後期後半（２期）	村上市山元遺跡、三条市経塚山遺跡、上越市裏山遺跡
②	高台	大規模	後期後半（３期）	新潟市古津八幡山遺跡、妙高市斐太遺跡
③	低い丘陵、低地	小～中規模	終末期／古墳早期（５期）	長岡市横山遺跡、刈羽村西谷遺跡、上越市釜蓋遺跡

表２　環濠集落の種別の特徴

②様々なモノが見つかる高地性環濠集落・環濠集落

高地性環濠集落・環濠集落では、遠隔地からもたらされたものも多く見つかります。村上市山元遺跡では全国で10例程しかない筒形銅製品（13）が出土しました。新潟市古津八幡山遺跡では、長野・群馬県に多く分布する鹿角装鉄剣が墓（図７）の副葬品として見つかっています（14）。三条市経塚山遺跡の板状鉄斧（15）は、山陰地方あたりからもたらされた可能性もあります。当県では、弥生時代後期後半に鉄・青銅製品などの貴重品が高地性環濠集落で多く見つかります。この時期は北海道系の続縄文土器が秋田・山形県を飛び越えて、当県を国内の最南地として出土します（11）。これは、越後平野に行けば鉄など西側の情報が得られたことも大きな要因と考えられます。高地性集落・環濠集落は、社会的な緊張状態を反映したムラである一方で、情報・物流のネットワークを築いた地域の中核的なムラと想定されます。国内最北の地である当県は、周辺県と比べてもその数が多い地域です。当県の状況を検討することで、日本国内の動きが見えてくると考えます。

（9）村上市山元遺跡の土器棺墓（第１会場）

（11）村上市山元遺跡の続縄文土器（第１会場）

図７　新潟市古津八幡山遺跡の方形周溝墓

（10）村上市山元遺跡の土器棺墓（第１会場）

（12）村上市山元遺跡の鉄剣（第１会場）

（13）村上市山元遺跡の筒形銅製品（第１会場）

（14）新潟市古津八幡山遺跡の鹿角装鉄剣（左）と鉄鏃（第２会場）

（15）三条市経塚山遺跡の板状鉄斧（第１会場）

３　古墳時代の越後平野

（１）環濠集落廃絶後の越後平野

県内で大規模な環濠集落がなくなる頃、近畿地方を中心に前方後円形の墳墓が誕生しているようです。この墳墓の各地への波及をもって古墳時代の開始とする意見もあります。県内で大規模環濠集落の環濠埋没から前方後円墳の登場までの時期を、弥生時代終末期／古墳時代早期として状況を確認します。

県内では高台のムラが激減し、現在、水田になっている低地部でムラが営まれるようになります（図８）。また、弥生時代後期後半の土器の地域色が急速に解消され、東北系土器分布圏に属していた阿賀北でも北陸北東部系の土器が主体となり（16）、畿内（17）や北陸南西部（現在の石川県南部～福井県あたり）の土器（18・19）が中間地を飛び越えて入ってくるようになります。これは、低地開発のノウハウを持った人たちが移動してきた結果とも推測されます。弥生時代終末期／古墳時代早期（古墳時代前期前半まで）は人の移動が相当あったようで、全国的に遠隔地の土器が広範囲で確認されるようになります。また、北海道系の続縄文土器の南下は越後平野が最南地となります（24・25など）。

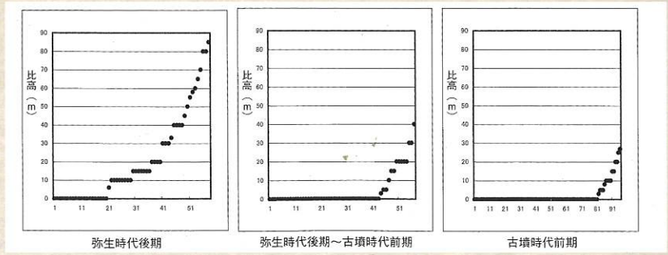


図８　弥生時代後期～古墳時代のムラの立地

（16）新発田市野中土手付遺跡の土器（第１会場）

（17）長岡市横山遺跡の畿内系タタキ甕（第１会場）

（18）阿賀野市腰廻遺跡の北陸南西部系甕（第１会場）

（19）新発田市野中土手付遺跡の北陸南西部系装飾器台（第１会場）

（20）新発田市野中土手付遺跡の小型器台（脚部の三角形透孔は外来系（第１会場）

（23）阿賀野市腰廻遺跡の続縄文土器（第１会場）

（24）長岡市横山遺跡の東北系土器（又は続縄文土器）（第１会場）

（21）阿賀野市腰廻遺跡の皮袋形土器（外来系）（第１会場）

（22）新潟市道正遺跡の皮袋形土器（外来系）（第２会場）

（25）新潟市椋Ｃ遺跡の続縄文土器（第２会場）

この時期の県内の墓は、規模は10m程度と小さな点が特徴です。ただし、長岡市姥ヶ入南遺跡では副葬品として見つかった鉄斧は、朝鮮半島産と思われる大変珍しいものです（26左）。

姥ヶ入南遺跡の鉄斧や遠隔地の土器は、どのように越後平野に運ばれたてきたか。一つ考えられるのは日本海を舞台にした海上交通です。新潟市江南区道正遺跡では、準構造船と呼ばれる外洋性の船が描かれた土器が見つかっています（27）。実際に、この船を見たことがなければ描くことができないと想定されます。また、同市北区葛塚遺跡では、人物が描かれた絵画土器が見つかっています（28）。当時の生活を知る貴重な事例です。

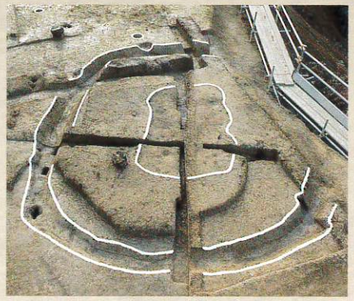


図9　長岡市姥ヶ入南遺跡の周溝墓

（27）新潟区江南区道正遺跡の準構造船が描かれた絵画土器（第２会場）

（28）新潟区北区葛塚遺跡の人物が描かれた絵画土器（第２会場）

（26）長岡市姥ヶ入南遺跡の鉄斧（左）と鉄剣（右）（第１会場）

（２）越後平野の古墳

①新潟県の古墳の数と分布

県内でも古墳時代前期に、前方後円墳、前方後方墳、円墳、方墳が築造されます。全国で約16万基の古墳が登録されていますが、新潟県の古墳は約600基です。これは全国で33位と、隣接する長野県や群馬県、福島県には及びませんが、富山県･山形県を上回ります。比較的安定して古墳が築造された日本海側の最北地です（図10）。

図10　新潟県の古墳分布図
（文献⑤を一部改変）

	名称	所在地	時期	墳形	全長
1	古津八幡山古墳	新潟市	中期	円墳	約60m
2	菖蒲塚古墳	新潟市	前期	前方後円墳	54m
3	城の山古墳	胎内市	前期	円墳	約40m
4	飯綱山27号墳	南魚沼市	中期	円墳	40m
5	保内三王山1号墳	三条市	前期	前方後円墳	38m
6	山谷古墳	新潟市	前期	前方後方墳	37m
7	観音平４号墳	妙高市	前期	前方後円墳	34m
8	吉井行塚１号墳	柏崎市	中期	前方後円墳	32m
9	牡丹山諏訪神社古墳	新潟市	中期	円墳	30m
10	緒立八幡神社古墳	新潟市	前期	円墳	30m

表３　新潟県の古墳の大きさランキング

県内の古墳を大きさランキングで示したのが表３です。最大は、円墳の新潟市秋葉区古津八幡山古墳で全長約60mです（図11）。隣接県では、古墳時代前期に100m級の前方後円墳・前方後方墳が築造されるのに対し、時期や規模・墳形が異なります。未発見の大型墳の存在も予想されますが、県内では大規模な古墳が越後平野に集中する点も特徴となる可能性があります。

図11　新潟市古津八幡山古墳

（３）越後平野の古墳時代前期

①前期の古墳

前期古墳は、九州南部から北の太平洋側は宮城県に及びます。日本海側では山形県庄内地方で可能性があるものもありますが、最北は胎内市城の山古墳（円墳）です。前方後円墳の最北は新潟市菖蒲塚古墳でしたが、近年同市で仮称･角田浜妙光寺山古墳が発見されました（図12）。時期の検討は今後ですが、日本海側最北の前方後円墳が角田・弥彦山麓であることは変わりません。

古墳の形は前方後円墳－前方後方墳－円墳・方墳の順で、格が高いと言われています（図13）。ただし、円墳でも、豊富な副葬品が確認される場合もあります。約40mの円墳である胎内市城の山古墳（図14）は、埋葬主体部の長さが約８mと長大な舟形木棺が納められていました。中から鏡や勾玉・管玉・ガラス小玉などの装身具類、ヤリガンナ（29①）・刀子（29②）、鉄斧（29③④）の工具、銅鏃（29⑤）や靫などの武器・武具があり、畿内の有力古墳と同じセットで副葬されました。このうち靫３点は、全国最多の出土量になります。城の山古墳が造られた古墳時代前期後半には、古墳上の祭祀行為に使用されたと推測される土器が特に多く見つかっており（29⑥～⑧）、専用に作られた可能性もあります。

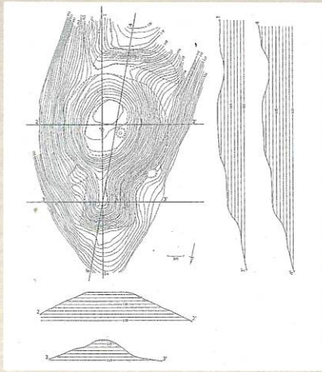
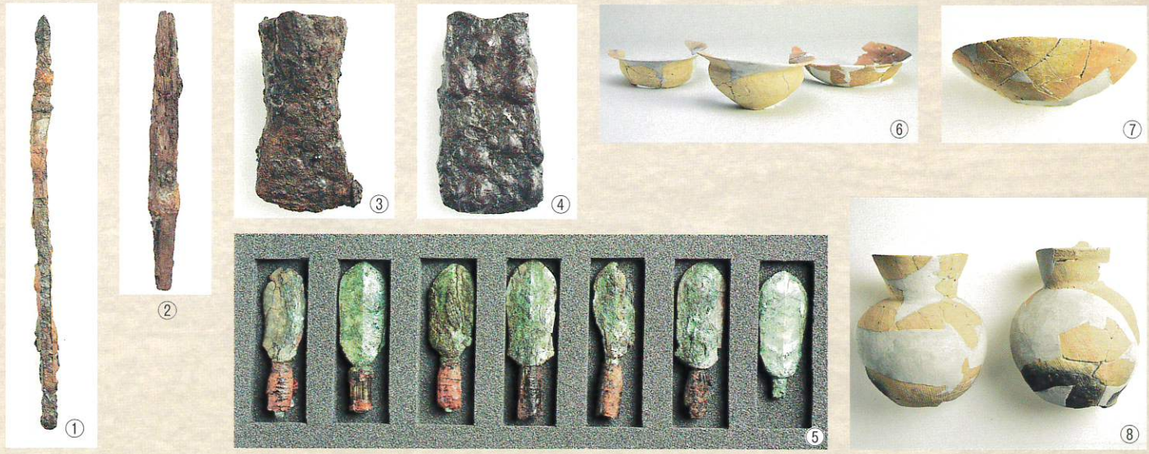


図12　仮称・角田浜妙光寺古墳
測量図（文献⑤から）

図13　古墳の形と序列

図14　胎内市城の山古墳遠景



（29）胎内市城の山古墳の副葬品（①～⑤）と土器（⑥～⑧）（第１会場）
【①ヤリガンナ、②刀子、③袋状鉄斧、④板状鉄斧、⑤銅鏃、⑥土師器鉢、⑦土師器高杯、⑧土師器壺】

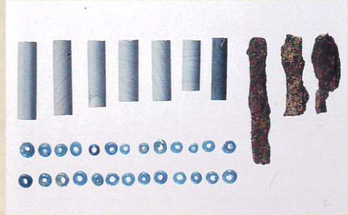
新潟県の前期古墳では見つかっていませんが、土師器壺の底部に穴を開けたもの（底部穿孔壺）を古墳の上に並べる地域が多くあります。発掘資料ではないものの、新潟市北区松影Ｄ遺跡では底部穿孔壺が多く採集されており（30）、周辺に古墳の存在も予想されます。

（30）新潟市松影Ｄ遺跡の底部穿孔壺（左：胴部、上：底部）（第２会場）

越後平野で最も古墳が築かれた弥彦・角田山麓では、弥彦村稲場塚古墳（前方後円墳26m）－新潟市西蒲区山谷古墳（図15　前方後方墳37m）－同・菖蒲塚古墳（図16　前方後円墳54m）の順で首長墓が変遷すると考えられてきました。安定して古墳の築造を行うには、首長を支える基盤が重要です。

図15新潟市山谷古墳の調査風景

（31）新潟市山谷古墳の出土土器（第２会場）



（32）新潟市山谷古墳の副葬品【左上：緑色凝灰岩製管玉、右上：ノミ状鉄製品、左下：ガラス小玉】（第２会場）

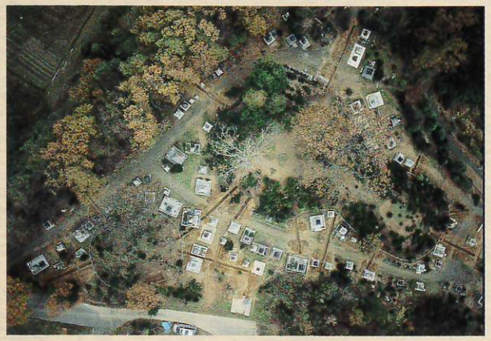
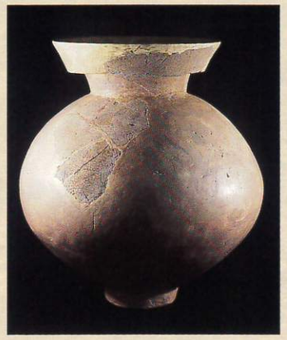


図16　新潟市菖蒲塚古墳と隼人塚古墳



（33）新潟市菖蒲塚古墳出土の壺土器（第２会場）

図17　新潟市緒立八幡神社古墳の葺石

古墳の近くにあるムラは、被葬者を支えた基盤と想定されます。新潟市西蒲区山谷古墳と御井戸遺跡（34）、同区菖蒲塚古墳と南赤坂遺跡（図18）、三条市保内三王山古墳群と吉津川遺跡などの関連が想定できます。このうち南赤坂遺跡では、多数の北海道系・続縄文土器（36左・右）や折衷土器（中）とともに、石器も確認できます（35）。菖蒲塚古墳の被葬者は、北方社会の情報を入手できる重要人物であったと想定されます。

（34）新潟市御井戸遺跡の出土土器（左：在地、右：続縄文土器（第２会場）

（35）新潟市南赤坂遺跡の石器（第２会場）

図18　新潟市南赤坂遺跡の建物跡

（36）新潟市南赤坂遺跡の続縄文土器（第２会場）

②土器からみた地域間の交流

弥生時代終末期/古墳時代早期は、人の移動が多かったためか、全国的に様々な地域の土器が動きます。当県は特に顕著で、他地域の土器が入る一方、当県の土器も古墳時代前期前半まで他地域に動きます。特に阿賀北で多い鍔付結合器台（37）は、東北から関東、一部は東海・畿内へ拡散します。鍔付結合器台と北陸南西部の装飾器台（19）が折衷した土器（38）も当県が発信源と考えます。

古墳時代前期後半には、畿内で発達した高杯や小型丸底壺などの情報が東日本に波及し、独自のアレンジを加わって地元に根付きます（39-①②・42）、越後平野への波及ルートは、前期前半までの北陸北東部（石川県北東部や富山県）と異なり、関東・東北あたりと想定されます。一方で、遠隔地の土器は引き続き越後平野にも波及します。特に三条市吉津川遺跡では畿内（布留式）系甕（40）、山陰系壺（43）、瀬戸内系壺（44）などが見つかっている特異な遺跡です。

（37）新潟市正尺Ｃ遺跡の鍔付結合器台（第１会場）

（38）新潟市道正遺跡の装飾器台（第２会場）

（39）聖籠町山三賀Ⅱ遺跡（第１会場）

（40）三条市吉津川遺跡の畿内（布留式）系甕（第１会場）

（41）新潟市四十石遺跡の畿内（布留式）系甕（第２会場））

（42）三条市吉津川遺跡・畿内系鉢【関東あたりでアレンジされたもの】（第１会場）

（43）三条市吉津川遺跡・山陰系壺（第１会場）

（44）三条市吉津川遺跡・瀬戸内系壺（第１会場））

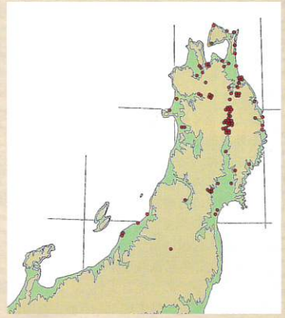


図19　古墳時代前期の続縄文土器の分布

このような西日本的な土器の波及する一方で、引き続き北海道の続縄文土器が越後平野を国内最南地として集中します（図19）。正に南（西）北の情報が集まる状況は、前期後半まで続きますが、やがて古墳時代中期になると確認できなくなり、北方社会の日本海側の玄関口は山形県庄内地方あたりに北上するように見えます。

（４）越後平野の古墳時代中期～後期

①中期の古墳

中期になると越後平野では古墳の築造が停止し、新たに前期古墳がなかった魚沼地域で築造されるようになるため、ヤマト政権の東国経営が海上ルートから内陸ルートへ変換したと考えられてきました。しかし近年の調査で、県内最大の新潟市秋葉区古津八幡山古墳（円墳・約60m）の築造時期が、前期末～中期初頭になることが明らかになりました。

また、新潟市東区牡丹山諏訪神社古墳（円墳・約30m　図20）では、墳丘の周りに立て並べる円筒埴輪（45）が県内で初めて確認されるなど、大きな発見が相次ぎました。この古墳は墳丘が削平されているため出土品は原位置をとどめていませんが、県内最古級の須恵器（48）や類例の少ない短甲の可能性がある鉄片（47）、土

図20　牡丹山諏訪神社古墳

製勾玉（46）が見つかっています。

牡丹山諏訪神社古墳が築造された中期前葉頃は、日本海ルートは引き続き重視されていたようです。ただし、現状では古津八幡山古墳と牡丹山諏訪神社古墳の周辺には継続する古墳が見つかっていまいません。このことは、権力が継続しなかったことを示す可能性もあります。

牡丹山諏訪神社古墳が築造された後の中期中葉頃になると、秋田県まで土師器を使用するムラが北上します。このことは越後平野の古墳の築造停滞と無関係ではではなさそうです。

（45）牡丹山諏訪神社古墳・円筒埴輪（第１会場）

（46）牡丹山諏訪神社古墳・土製勾玉（第１会場）

（47）牡丹山諏訪神社古墳・短甲の可能性がある鉄片（第１会場）

（48）牡丹山諏訪神社古墳・須恵器高杯脚部（第１会場）

②後期の古墳

県内では引き続き魚沼地域や頸城地域（上越市・妙高市付近）で古墳が多く、佐渡でも確認できるようになります。越後平野では後期前半（６世紀前半）に、これまで古墳が未確認であった阿賀北の村上市で築造されています。浦田山古墳群では埋葬施設が把握された２基はいずれも墳丘が削平されて存存しませんが、１号墳は無袖式の横穴式石室となります。２号墳は、1950年代には磐舟柵の関連施設と認識されていましたが、各地で確認された城柵の調査成果から古墳の石室と認識されるようになり、新潟大学考古学研究室の調査で佐渡台ヶ鼻古墳と同様に北九州型の初期横穴式石室であることが明らかになりました。

図21　村上市浦田山２号墳の石室（文献④から）

三条市保内三王山古墳群は、５号墳（円墳・径約14m）・12号墳（方墳か、一辺約14m、木棺直葬）など後期に再び古墳の築造が開始されます。保内三王山古墳群は、古墳時代前期と後期の古墳で構成される県内唯一の古墳群です。

後期後半になると、越後平野では古墳の存在がはっきりしなくなります。魚沼地域でも同様な傾向が確認できそうです。一つの大きな変化と予想されます。

図22　村上市浦田山２号墳の復元図（文献②から）

（49）村上市浦田山２号墳出土土器（第１会場）

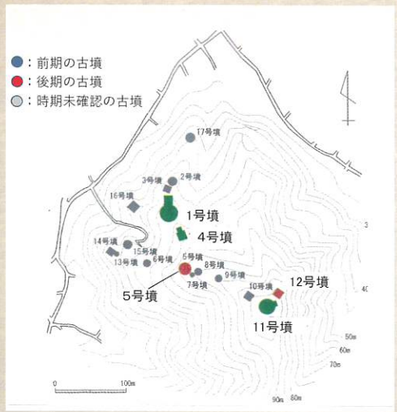


図23　三条市保内三王山古墳群の分布図（文献⑤から）

（50）三条市保内三王山５号墳の須恵器甕（第１会場）

（51）三条市保内三王山12号墳副葬品（鉄鏃と耳環（右））（第１会場）

（52）三条市保内三王山12号墳の須恵器高杯（第１会場）

（53）三条市保内三王山５号墳の土師器鉢（第１会場）

③中期・後期のムラ

越後平野で古墳が築造された中～後期前半には、多くのムラが営まれています。新潟市秋葉区古津八幡山古墳の近くには舟戸遺跡があり、中期後半には県内で最もはやく調理施設にカマドを導入しています。大型の建物もあるため、古津八幡山古墳の造営に携わったムラとも推測されます。

阿賀北の胎内市天野遺跡は、前期前半から後期初頭まで続くムラです。須恵器の食膳具の導入も早く（57）、丸底の土鍋（56）が多いなど、県内他遺跡との違いが鮮明です。同じく胎内市宮ノ入遺跡では、朝鮮半島産の陶質土器が確認されています（58）。胎内市ではムラの密度も濃い一方、中～後期古墳は未確認な点は検討課題の一つです。中期後半～後期前半にかけて、村上市六百地遺跡、新発田市神明裏遺跡・蚤取橋遺跡、阿賀野市腰廻遺跡などのムラが継続して営まれています。食膳具を中心に須恵器の導入も確認でき（60・62・66）、祭祀具（61・64・65）、鉄生産に関わるフイゴの羽口（59）の存在など、西側の文化が確実に伝播していました。発掘調査面積が限られるため全体像が不明ですが、断続期間を含み古墳時代前期～古代まで継続する阿賀野市腰廻遺跡は、福島潟周辺を掌握した中核的な集落の可能性もあり、今後更に注目すべき遺跡と考えます。

これらの集落は、やがて６世紀後半頃、越後平野で古墳の築造が明確でなくなる時期になると、消滅又は規模が縮小するなど、古墳の消長と連動していた可能性があります。

図24　新潟市舟戸遺跡の大型竪穴建物（奥がカマド）

（54）新潟市舟戸遺跡・土器（第２会場）

（55）胎内市天野遺跡・甑（第１会場）

（57）胎内市天野遺跡・手前：須恵器、奥：土師器（第１会場）

（56）胎内市天野遺跡・土鍋（第１会場）

（60）村上市六百地遺跡・須恵器（左）と土師器（右）（第１会場）

（58）胎内市宮ノ入遺跡・陶質土器（第１会場）

（59）新発田市蚤取橋遺跡・羽口（第１会場）

（64）新発田市蚤取橋遺跡・斎串（第１会場）

（62）阿賀野市腰廻遺跡・須恵器高杯（第１会場）

（61）阿賀野市腰廻遺跡・子持勾玉（左）土製勾玉（右）（第１会場）

（63）阿賀野市腰廻遺跡の須恵器杯・杯蓋（第１会場）

（65）新発田市蚤取橋遺跡・剣形木製品（第１会場）

（66）新発田市神明裏遺跡・須恵器杯（第１会場）

（67）新発田市神明裏遺跡・土師器杯（第１会場）

4　渟足柵・磐舟柵の造営

古墳時代後期後半（６世紀後半）に越後平野で減少した遺跡数は、飛鳥時代（７世紀）に入ると更に拍車がかかり、土器などの遺物を検索するのも困難になります。

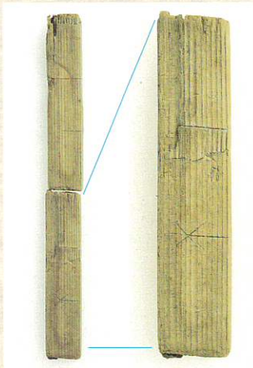
この頃に越後平野の大きな動きとして、日本書記には大化３（647）年に渟足柵が、翌大化４（648）年には磐舟柵が設置されたと記されています。高校の教科書にも掲載されたこの城柵（図25）は、北方の蝦夷に備えた軍事施設とされ、渟足柵は新潟市東区など、磐舟柵は村上市岩船地区などが推定地とされていますが、未だ発見されていません。

近年、遺跡の発掘調査で新たな情報が得られてきました。２つの城柵が築かれた直後、７世紀第３四半期頃（650年頃）に田上町行屋崎遺跡が、若干遅れて新潟市秋葉区大沢谷内遺跡が営まれます。直線距離で約２km弱と近接する遺跡は、出土品から農村ではなく、鉄鍛冶（73・88）や木材加工（68・89　図27）を行い、渟足柵を後方支援していたと想定されます。行屋崎遺跡から出土した銅製鈴（77）、槽（82）、人形・動物形土製品（75・76）などの祭祀遺物の存在に加え、遠隔地の可能性がある土器（81）の存在から他地域から移住者で編成された可能性が想定されます。

図25　東日本の城柵（文献④から）

（68）鑿

（69）雁又鏃



（70）物差し

（71）権状錘

（72）砥石

（73）羽口

（74）斎串

（75）人形土製品

（76）動物形土製品

（77）銅製鈴

（78）銅製耳環

（80）土師器高杯

（79）土師器土鍋（左右）と甑（中央）

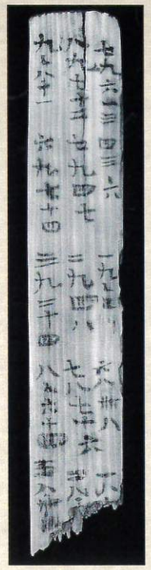
（81）コップ形須恵器

（82）槽

田上町行屋崎遺跡出土品（第１会場）

図26　遺跡遠景

（83）土師器壺



（84）
九九木簡

（85）舟形木製品

（86）櫂

（87）須恵器杯蓋

図27　曲物未成品出土状況

（88）羽口

（89）刳物未成品

（90）鉄鏃

（91）土製有孔円盤

新潟市大沢谷内遺跡出土品（第２会場）

一方の阿賀北では、発掘資料ではないものの７世紀前半の新発田市馬見坂遺跡では北方系の影響を受けた土器（92）が注目されます。大沢谷内遺跡とほぼ同じ時期、村上市三角点下遺跡の竪穴建物から見つかった土器の中には、長野県や北陸で多い把手付きの土鍋（93①）があり、移住してきた集団の遺跡と捉える意見もあります。これら以外では、村上市長松遺跡や六百地遺跡（94）・胎内市西川内北遺跡（95）、阿賀野市腰廻遺跡（96）などで７世紀台の土器が若干見つかっているに過ぎません。

渟足柵・磐舟柵が造営された前後の様相は、行屋崎遺跡・大沢谷内遺跡の調査により阿賀野川以南の情報が飛躍的に増加しました。一方で阿賀北でも、徐々に資料が増加しており、７世紀末～８世紀初頭とされる新潟市北区松影Ａ遺跡の土鍋（97）は北方系で、飛鳥時代の終わりまで中央政権の日本海側の最北地であり、北方社会の玄関口としての姿が浮かび上がります。やがて律令国家が成立する８世紀に入ると、聖篭町山三賀Ⅱ遺跡などの集落が成立し、越後平野でも遺跡数が増加していきます。既存資料の再検討・踏査や発掘調査により、未だ地下に眠る渟足柵・磐舟柵の姿をとらえ、日本の歴史に更に一石を投じる日が来ることを願っています。

(92) 新発田市馬見坂遺跡の土師器など（第２会場）

（94）村上市六百地遺跡の須恵器
杯蓋（第１会場）

（95）胎内市西川内南遺跡の須恵
器杯蓋（第１会場）

（93）村上市三角点下遺跡竪穴建物出土器
（第１会場）

（96）阿賀野市腰廻遺跡の須恵器
杯蓋（第１会場）

（97）新潟市松影Ａ遺跡の北方系
土鍋（第２会場）